

### III 特殊分類別（財別） 鉱工業生産及び生産者製品在庫の動き

（表 5、表 6）

#### 1. 最終需要財

元年の県内最終需要財の生産は、投資財、消費財ともに増加したため、対前年比7.5%と2年連続して増加し、指数は110.8となった。また、在庫も投資財、消費財がともに増加したため、対前年比8.1%と3年ぶりに増加し指数は105.5となった。

##### 1-1 投資財

元年の県内投資財の生産は、資本財、建設財がともに増加したため、対前年比9.6%と6年連続して増加し、指数は125.1となった。また、在庫は建設財が減少したものの、資本財が増加したため、対前年比10.8%と3年ぶりに増加し、指数は108.9となった。

##### 1-1-1 資本財

元年の県内資本財の生産指数は128.5で、対前年比13.6%と2年連続して増加した。これは、飲料用自動販売機、小型自動車等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1~3月期123.5（対前期比3.4%増）、4~6月期127.6（同3.4%増）、7~9月期139.8（同9.6%増）と3期連続して増加し、10~12月期は124.3（同11.1%減）と4期ぶりに減少した。

一方、在庫指数の年平均は122.3で、対前年比27.4%と2年ぶりに増加した。これを四半期別にみると、1~3月期113.9（対前期比13.8%増）、4~6月期118.2（同3.7%増）、7~9月期120.1（同1.6%増）、10~12月期136.9（同14.0%増）と63年10~12月期から5期連続して増加した。

##### 1-1-2 建設財

元年の県内建設財の生産指数は121.4で、対前年比5.3%と5年連続して増加した。これは、管継手、アルミニウムサッシ等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1~3月期126.5（対前期比11.2%増）、4~6月期119.2（同5.8%減）、7~9月期121.0（同1.5%増）、10~12月期118.9（同1.8%減）、増減をくり返した。

一方、在庫指数の年平均は99.6で、対前年比△0.3%と3年連続して減少した。これを四半期別にみると、1~3月期99.4（対前期比0.2%増）と2期ぶりに増加し、4~6月期は96.3（同3.1%減）と減少したが、7~9月期99.8（同3.6%増）、10~12月期103.1（同3.3%増）と2期連続して増加した。

##### 1-2 消費財

元年の県内消費財の生産は、耐久消費財、非耐久消費財がともに増加したため、対前年比4.5%と4年ぶりに増加し、指数は94.2となった。また、在庫は非耐久消費財が減少したものの、耐久消費財が増加したため、対前年比1.2%増と3年ぶりに増加し、指数は97.2となった。

##### 1-2-1 耐久消費財

元年の県内耐久消費財の生産指数は101.1で、対前年比5.2%と2年連続して増加した。これは、ウェイトの大きい小型自動車が増加したためである。四半期別に推移をみると、1~3月期94.9（対前期比7.1%増）、4~6月期98.7（同4.1%増）、7~9月期115.6（同17.1%増）と3期連続して増加し、10~12月期は98.8（同14.5%減）と4期ぶりに減少した。

一方、在庫指数の年平均は135.5で、対前年比36.5%と3年ぶりに増加した。これを四半期別にみると、1~3月期94.1（対前期比21.9%減）と3期ぶりに減少し、4~6月期97.4（同3.6%増）、7~9月期150.5（同54.4%増）、10~12月期204.4（同35.9%増）と3期連続して増加した。

##### 1-2-2 非耐久消費財

元年の県内非耐久消費財の生産指数は86.7で、対前年比3.5%と5年ぶりに増加した。これは、医薬品、揮発油等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1~3月期86.9（対前期比3.8%増）、4~6月期87.0（同0.1%増）、と2期連続して増加し、7~9月期は85.9（同1.2%減）と減少したが、10~12月期87.4（同1.7%増）と再び増加した。

一方、在庫指数の年平均は87.3で、対前年比△8.4%と3年連続して減少した。これを四半期別にみると、1~3月期87.3（対前期比2.5%減）、4~6月期85.3（同2.3%減）と63年10~12月期から3期連続して減少し、7~9月期86.5（同1.4%増）、10~12月期89.3（同3.3%増）と2期連続して増加した。

#### 2. 生産財

元年の県内生産財の生産は、鉱工業用生産財、その他用生産財ともに増加したため、対前年比4.7%と3年連続して増加し、指数は112.1となった。また、在庫も鉱工業用生産財、その他用生産財ともに増加したため、対前年比13.4%と3年ぶりに増加し指数は102.1となった。

##### 2-1 鉱工業用生産財

元年の県内鉱工業用生産財の生産指数は112.5で、対前年比4.6%と3年連続して増加した。これは、軸受、安全ガラス等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1~3月期109.1（対前期比0.2%減）、4~6月期114.0（同4.5%増）、7~9月期113.2（同0.7%減）、10~12月期113.6（同0.4%増）と増減をくり返した。

一方、在庫指数の年平均は100.7で、対前年比13.2%と3年ぶりに増加した。これを四半期別にみると、1~3月期94.3（対前期比2.6%増）、4~6月期98.3（同4.3%増）、7~9月期101.7（同3.4%増）、10~12月期

108.8 (同7.0%増)と63年7～9月期から6期連続して増加した。

## 2-2 その他用生産財

元年の県内その他生産財の生産指数は106.7で、対前年比6.0%と3年ぶりに増加した。これは、A重油、B重油等が増加したためである。四半期別に推移をみると、1～3月期105.3 (対前期比0.9%増)と63年4～6月期から4期連続して増加し、4～6月期は101.1 (同4.0%減)と5期ぶりに減少したが、7～9月期104.4 (同3.2%増)、10～12月期115.8 (同11.0%増)と2期連続して増加した。

一方、在庫指数の年平均は124.4で、対前年比16.1%と2年連続して増加した。これを四半期別にみると、1～3月期117.1 (対前期比7.8%増)、4～6月期119.6 (同2.1%増)、7～9月期120.8 (同1.0%増)、10～12月期140.8 (同16.5%増)と63年7～9月期から6期連続して増加した。

表5 特殊分類別鉱工業生産指数増減率

	対前年増減率				元年四半期別・対前期増減率(%)			
	61年	62年	63年	元年	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
鉱工業	0.1	1.3	3.6	6.1	2.8	2.7	2.3	△ 2.8
最終需要財	0.3	△ 0.9	3.6	7.5	5.9	0.8	6.4	△ 6.9
投資財	3.5	3.4	6.8	9.6	6.1	△ 0.7	6.1	△ 6.7
資本財	6.4	△ 0.8	7.1	13.6	3.4	3.4	9.6	△ 11.1
建設財	0.2	8.2	6.3	5.3	11.2	△ 5.8	1.5	△ 1.8
消費財	△ 3.2	6.2	△ 0.7	4.5	5.3	3.1	6.5	△ 6.3
耐久消費財	0.3	△ 8.5	4.6	5.2	7.1	4.1	17.1	△ 14.5
非耐久消費財	△ 7.1	△ 3.5	△ 6.5	3.5	3.8	0.1	△ 1.2	1.7
生産財	△ 0.1	3.5	3.5	4.7	0.0	4.0	△ 0.6	0.9
鉱工業用生産財	△ 0.2	3.7	3.8	4.6	△ 0.2	4.5	△ 0.7	0.4
その他用生産財	1.1	0.3	△ 0.1	6.0	0.9	△ 4.0	3.2	11.0

表6 特殊分類別鉱工業生産者製品在庫指数増減率

	対前年増減率				元年四半期別・対前期増減率(%)			
	61年	62年	63年	元年	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期
鉱工業	3.9	△ 6.7	△ 4.7	11.7	2.7	2.7	3.4	8.6
最終需要財	10.1	△ 2.1	△ 9.4	8.1	2.3	△ 1.3	5.7	9.6
投資財	6.4	△ 2.4	△ 5.4	10.8	7.0	△ 2.2	3.2	9.5
資本財	0.9	4.8	△ 9.2	27.4	13.8	3.7	1.6	14.0
建設財	10.3	△ 6.9	△ 2.7	△ 0.3	0.2	△ 3.1	3.6	3.3
消費財	19.4	△ 1.5	△ 18.3	1.2	△ 7.7	0.1	13.3	9.7
耐久消費財	59.8	△ 1.9	△ 36.7	36.5	△ 21.9	3.6	54.4	35.9
非耐久消費財	8.9	△ 1.3	△ 11.3	△ 8.4	△ 2.5	△ 2.3	1.4	3.3
生産財	1.1	△ 8.9	△ 2.3	13.4	2.7	4.6	3.3	7.4
鉱工業用生産財	1.0	△ 8.9	△ 3.4	13.2	2.6	4.3	3.4	7.0
その他用生産財	2.3	△ 8.9	15.0	16.1	7.8	2.1	1.0	16.5